

第2回おかやま協働のまちづくり賞について

★：前回の委員会でだされた意見

⇒：事務局案

1 制度的な見直しについての委員会での意見（論点）と見直し案

(1) 競い合いではなく、称え合い、学び合う場としていくためには。

★競い合いがよくないということではないのでは。

★アフターケアが大切なのでは。

★プレゼン力で決まってしまうのは問題。

★競いあうほうが優れているところはわかる。

★トーナメントのようになった印象が問題なのか。

★選ぶのだから競争も仕方ない。その結果をうけて今後の取組を考えてもらうきっかけになればよい。

⇒最終審査の競争感をのぞくため、委員会で決定する。

プレゼンテーションの機会がないので、審査会でのヒアリングを行う。

市民の投票ができないが、インターネットを行うことでカバーする。

(2) 共助社会づくりとなる地域のまちづくりの取組と、社会課題解決をすすめる公益活動とを同列で評価できないのではないか。

★課題解決の取組の広がり・広さと、課題の解決の深さ、どちらを評価するのか

★地域型と市民活動型の評価

⇒募集においては分野をわけることはしないが、委員会の審議において必要ならば大賞を2件だすこともできるようにする。

(3) より多くの市民の関心をひろげ、フォーラムへの参加を増やしていくには。

⇒2月の市民協働フォーラムの内容の充実をはかる。

入賞取組の発表、講演、パネルディスカッションなど、協働の学び合いの場にする。

応募取組のすべてについて活動ポスターを作成し、展示等を行うこととする。

2 日程（スケジュール）案

- (1) 5月16日 第1回委員会 概要・テーマの審議
- (2) 6月29日 第2回委員会 テーマ・募集要項の決定
- (3) 8月10日～10月10日 募集
- (4) 11月～12月中旬 委員による書類審査
- (5) 11月1日～11月30日 インターネット投票
- (6) 12月中旬 審査会（第4回委員会）
- (7) 2月中旬 市民協働フォーラム、表彰式

3 第2回の募集テーマについて

(1) 市民協働フォーラムのアンケートから

- つながる ●「食」「農」「和(輪)」 ●「語り合い」「交わる」
- 安心なまち・進歩するまち・健康寿命 ●思いやり ●手をつなごう
- 少子化対策 高齢化対策 元気 ●福祉のまちづくり
- 「語る」「継承」 ●「未来」「希望」 ●岡山らしさ ●絆 自立
- 地域貢献 ●ふるさと 全体福祉 安心 ●地域と地域をつなぐ
- 笑顔 関わり ふれあい ●かかわり ●具体的なテーマが良い
- 未来 ●つながり 支え合い ●笑顔 場づくりのまま
- ひきこもり支援 ●環境 ●健康、安心 ●希望
- 広げる 続ける ●世代間交流 ●ノーマライゼーション
- 「誰もが」「一度は」「最前線」を走れるようなテーマ。病気の人も外国人もされる側ではなく、する側になれるような
- 子どもと未来 子どもと夢

(2) 「市民のひろば」・「つながる協働ひろば」の募集でよせられた提案

- 公共施設や公園がゴミや落書きで汚れているので、清掃活動やリサイクルを通して、地域世代間の交流の新しい動きを知りたい。
- 介護、年金、健康、医療など老後の暮らしを支えること
- 地域コミュニティの再生、活性化
- 安全・安心 見守り(こども、高齢者)
- 創造 ●「つながろう」 地域とのつながりがみえるテーマ
- 健康 ●生きがい 実践 ●エコ リサイクル
- 世帯間交流 ●健康寿命 ●防災 ●助け合い 声掛け
- コミュニケーション 病院とボランティア 無駄のない税金の使い方
その人にあった仕事のアドバイス
- 住民によるまちづくり 高齢化 水洗化の実現 ●絆 趣味
- たすけあい ●国際化 ●感謝 つながり ●いじめ ●あいさつ
- 老人の歩きやすいまちづくり 子育て支援 ペットの楽しいまち歩き
- なかま アイデア ●二世帯 三世帯 ●地域との共生
- 「おもいやり」「わ」: ご近所の「わ」、友達「わ」、趣味の「わ」、たくさんの「わ」を「思いやり」でつなげられれば、すみやすい岡山市になるのでは。「わ」にはいりやすい工夫や啓発アプローチを紹介してほしいです。
- 産・官・学 企業や大学の地域貢献 ●持続性
- こどももおとなもみんなで取組もう ●ふれあい ●場づくり2

(3) 委員からの提案

- 若手の人材育成につながるもの ●若者
- たねをまく私達 あしたを見つけに ●各地域、市民が主体となった取組
- 地域本意の住民・NPOの役割とは
- 次世代の参画・活躍(子ども達・若者の参画、30代から40代の参画など)

- 企業との協働
- 地球へのやさしさ、地域のまちづくり
- 空間・施設の有効活用
- 募集範囲がひろがり過ぎないテーマ

活動に共感し、多数の人が参加したくなるような事例があつめられるテーマがよい。

(4) テーマ案 (多かった意見を整理)

「若者」 若い世代のチャレンジや、次世代の参画、担い手づくりにつながっているものを掘り起こせないか。

★重要なテーマだが、ESD アワードとかぶってくる。できれば違いを明確にしたほうがよい。

「企業」 課題解決の協働に企業や事業所が役割りを果たしている取組を掘り起こせないか。

★「企業」とか「町内会」という主体はテーマにはふさわしくない。

★要件の中に企業や多様な主体の参加を評価することを明記してはどうか。

★要件に団体の多様性と協働の深さが評価されることを明記する。

「支え合いの地域 (仕組み) づくり」

高齢化社会、子育て、防災・防犯などで、具体的な支え合いの仕組みづくりになっている取組を掘り起こせないか。

★テーマはあまり広くないほうがよいのではないか。

⇒募集要項に協働する団体の多様性と協働の深さが評価されることを明記することとする。

⇒事務局からのテーマ案

支え合いの地域づくりを市政の課題から焦点をしぼってみました。次の3案をたたき台にご検討ください。

①超高齢化社会を乗り越える

支え合いの地域づくりのうち、高齢化社会の課題解決をめざすもの、今後広がるだろう課題に向き合っているものにしてはどうか。

②地域の魅力発信と地域活性化

持続可能な国際観光年である今年、岡山でも国際観光シンポジウムが開かれるが、地域の魅力の発掘と発信により、地域が活性化し、地域住民の元気や誇りにつながる取組を発掘してはどうか。

③食育・健康

岡山で全国食育大会が開催され、食の意義や可能性が注目されています。健康寿命の延伸という岡山の課題とあわせたテーマとしてはどうか。